

【全体概要】 三重県では、昨今の地球温暖化等の影響により、ウメの成熟が急速に進む傾向がみられる。熟度の進んだウメは傷みやすいことから、傷みにくい青梅が市場から求められており、青梅の状態で出荷することが重要となってきた。そこで、樹勢の強い樹の果実は成熟が進みにくいことから着想を得て、樹勢コントロールが容易な樹体ジョイント仕立栽培等を活用した密植垣根栽培技術の確立に取り組んでいる。

## 新品種・新技術等の概要

神奈川県農業技術センターが開発した樹体ジョイント仕立て栽培は、樹の先端を直線上に接ぎ木し、整列した樹形にする技術で、ナシ、カキ、ウメ等の様々な樹種で試験されている。これにより、従来の整枝法に比べ、樹勢をコントロールしやすく、作業が省力化できるとともに、密植により早期成園化が可能となる技術である。

## 主な取組内容

樹体ジョイント仕立て栽培について、神奈川県農業技術センター、茨城県水戸市農業技術センターおよび現地ほ場での情報収集を行った。

そして、現地実証圃として、大苗育苗圃の設置と樹体ジョイント栽培実証圃を設置し、生産者への技術講習会を実施した。

また、産地、実需者(市場、加工業者)と連携し、ウメの収穫時期による加工適性の評価を行った。

先進地視察



神奈川県農業技術センター

現地実証圃



大苗育苗圃



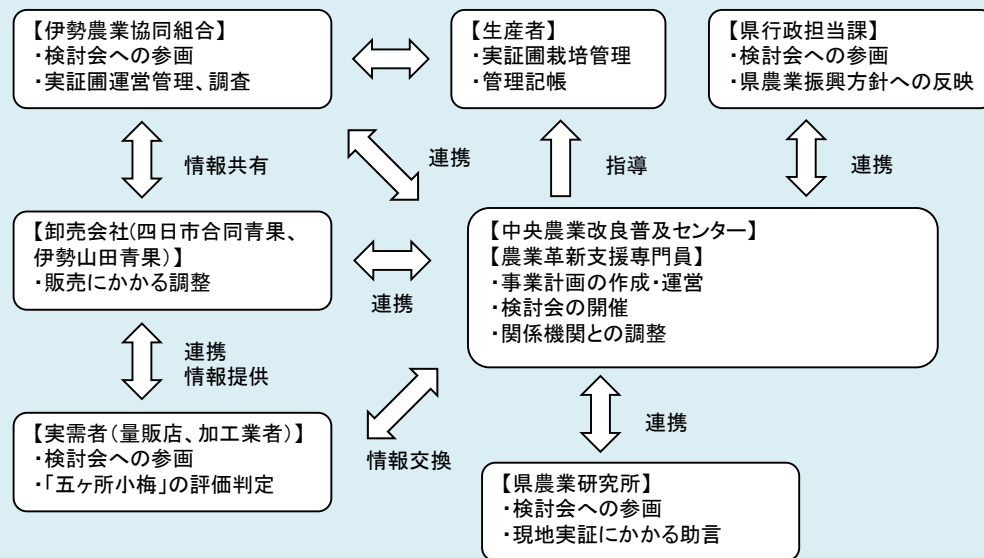
接木の実証



ジョイント樹形実証圃



## 実施体制図



## 課題と今後の対応

先進地での情報収集と大苗育苗圃の設置および樹体ジョイント栽培実証圃の設置により、マニュアル作成のための基礎データの収集を行った。今年度も、生産者との意見交換を実施し、作業上の注意点等を含めたマニュアル作成・配布を行う。

これにより、樹体ジョイント仕立栽培等を活用し、温暖化等の影響に対応したウメの密植垣根栽培技術を確立し、県内の普及に取り組む。